

令和 6 年度 ぽかぽか保育園自己評価結果公表シート

評価項目	取り組み状況
保育の計画性	ぽかぽか保育園の理念に基づいて作成された保育全体計画にそって運営することができた。一人ひとりの子どもの発達をふまえた上で、年間計画、月案、週案を立て0歳児、1歳児、2歳児それぞれ年齢にふさわしい体験を積み重ねることができた。年間の行事については振り返りを行い、テーマ、内容についてこどもたちの発達に即したものになっているか検討を重ねて次年度へ繋いでいる。
保育のあり方・こどもへの発達に応じた対応	感染症拡大防止に配慮しつつも、こどもたちの生活が極力制限されることの無いよう保育計画に基づいて実施した。個々の発達とルーム全体の成長のバランスをみながら日常の保育はもとより、食育や水遊び、造形遊び、お散歩、Sunshine English, ぽかぽかランド、クリスマス会、節分など個々の発達を促したり感性を育む活動を丁寧に実施することができた。
保育者としての資質や能力、適正	ベテランの職員の豊富な専門的知識や技能と若い職員のエネルギーや新しい発想を融合し、日々の保育運営を行った。年2回の自己評価や12月の人事考課を通じて職員の能力や適正の見極めを行い、研修や面談を通じて資質向上に向けて努力した。自己評価の結果を分析したところ、個々の感覚と保育園の役職層の評価とが若干違っている部分が見受けられたため、面談を行い違いが修正されるよう努めた。
保育環境の整備	物的環境として園庭の老朽化した遊具の撤去と砂場の枠の入れ替え、砂の補充を行った。室内もルームからの要望を運営会議で上げてもらい、安全面、予算面から検討し、優先順位をつけて順次購入、取り付けを行った。 人的環境として幅広い年齢層の職員が協力して保育を行った。またそれに加え法人内の就労支援施設（ぽかぽかハート・ヴィレッジ）の利用者さんに清掃やおもちゃの消毒など、保育園として必要な業務を委託した。そのことを通じてぽかぽか保育園という一つの建物のなかでノーマライゼーションの実現を図りながら、望ましいと考えられる社会の縮図としての環境下でこどもたちの保育を実施することが出来た。
保護者対応・支援	各ルームのリーダーを主軸にしたチーム制に基づき、内部で情報共有した上で保護者に対して丁寧なコミュニケーションを心掛けた。連絡ノートを通じてや、朝夕の送迎時に保護者からの相談を受け止め、傾聴し、共感し、対応が必要な場合には速やかに対処することに努めた。 こどもの利益を最優先にしつつも、各家庭の事情にも配慮し落としどころを決めて、保護者支援を行った。
地域や社会との関わり・地域子育て支援	お散歩に出かけて地域の方々と交流したり、子育て支援拠点を活用し、自然な形で地域の保護者の方に保育園の日常の様子を見ていただくことができた。またぽかぽかキッズステーション（児童発達支援施設）と園庭交流を行ったり、保育園体験をする機会を設けた。
職員の資質向上	保育士会の研修、キャリアアップ研修、コドモンの動画研修など職員の知識、技能が向上するよう、またモチベーションが上がるように取り組んだ。
今後の課題	保育園設立から17年が経過し、世代交代の時期を迎えているため、一人ひとりのこどもや保護者への丁寧な支援を柱に時代の変遷を鑑みた保育事業運営を目指す。 また法人の運営体制も転換期にあり、保育サービス利用者とかどもたちの最善の利益を第一に考え、継承や引継ぎを計画をたて丁寧に実施する。